

D. 継続的・計画的な進路指導についての研究

鈴木洋一郎 原田 秀雄 中野 満男 加藤 剛
倉田 有邦 高橋みな子 北田 明子 富田 昇
阿部 健一

第3年目の研究の結果を報告する。われわれが能力別指導やそれに伴うカリキュラムの在り方、更に進路適性指導といろいろなテーマをもって研究を始めてから3年、今までその成果をまとめて来た。従来進路指導は高校教育の究極の目標の一つと考えられながらも単なる受験指導に陥りがちであった。ベビーブームという大学受験難の現今には大学側からも社会経済界からも高校への要請は誠にきびしい。この嵐の中であってわれわれはあくまで高校教育の在り方を見失わず、入学当初から継続的にかつ計画的な進路指導を研究しようとした。この報告は本校における研究協議会のもを基にしてまとめたものである。なおこの研究にあたり学部統・大西・小堀教授・丸井助教授の御指導をいただいたことを付記する。

I 高校における進路指導の問題点

1. まえがき

最近の「進路指導の充実強化」という教育施策は技術の革新・貿易の自由化という国際的な市場獲得の要請のもとに、経済開発や社会開発などから発想された人的能力の開発一人づくりが強調されるようになった。従来の「すべてのものへの完全な中等教育を」というスローガンから「激化する産業経済社会に対応する能力のあるものを」という所謂イギリス的能力主義へ移行しつつある。これらアメリカ的平等主義の考え方が止揚されつつある傾向は、教育原理の上では現代中等教育の特徴の一つであろう。

「適性・能力に応ずる進路指導」は人的能力を開発し適材適所にと社会的効果を目ざしているのであるが、生徒の多様な能力の実態を把握しその適性を正確に発見しそこから計画的な進路指導がなされなければならない。このレポートは過去2年間に報告した進路指導のあり方とHRTの指導などに引き続いて、指導実践から得た問題点に私見を述べてこの研究の結びにしたいと思う。

2. 後期中等教育における進路指導の問題点

以上述べたような社会的情勢において教育内容の質的向上が望まれる一方、高校進学率の増加のために生徒の質的水準が次第に低下している。この現況に対して産業界・経済界から数次の咨問や答申が行なわれ、更に中教審からは「期待される人間像」について意見

が述べられるなど、後期中等教育への要求は激しいものがある。また高校長協会においても普通課程に6コースを進路に応じて設けることを提案し、更に当局は一県に理数科コースの高校設置を具体化するように要望している。このような現実的な要請または動向において進路指導を単なる「就職斡旋」とか「受験係」の問題と考えることはできない。

「能力に応じた進路指導」を正しく実践させる基盤は現在の高校教育の中には発見しがたい。近年のベビーブームのため受験難が激しさを加えるに従い、生徒は入試に直接関係のない科目を軽視して受験準備に熱中し、正しい能力主義に立とうとする進路指導を困難にしている。進路指導は生徒の能力をテストの成績で判定してその優劣によってコース分けをするという便宜主義・能率主義的な方法がとられ、「進路に応じた能力指導」に陥っている傾向である。

3. 本校における進路指導上の問題点

1. 特活と進路指導

特活が教科や学校行事等とともに教育課程の一つの領域であり、教育目標を達成するためには、HR・生徒会・クラブ活動への積極的な参加が要求されている。しかし、生徒はこれらの活動にどんな意識をもち、態度を示しているのだろうか。これについては次の

ア. クラブ活動への参加状況

イ. 生徒会活動

ウ. HRのロングタイムの利用

の三点のうち、特に学年進行につれて不参加率の高い